疑問文における意思・希望表現と聞き手の私的領域との関係

李 承禧

【キーワード】意思表現・希望表現・私的領域・丁寧さ・失礼な表現

【要旨】

相手に対して失礼にならない発話をするためには、単に「です・ます」を文末に使用したり、尊敬語・謙譲語などを用いた敬語表現を使用するだけでは十分ではない。特に、意思・希望表現に関しては、たとえ敬語を多用して丁寧に表現したとしても、本当の意味で丁寧さにつながるとは言えないのである。失礼さをなくすために、表現だけを丁寧にすれば良いという単純な問題ではなく、その言語が使われている社会での言語表現に対する、ある種のルール（決まり事）なども考慮することが重要である。

本稿では、従来の「コトバ」レベルでの指摘に留まらず、対象とする範囲を広げて「文章」レベルでの意思・希望表現について調査し、疑問文での意思・希望表現が適切であるための条件を考察した。さらに、疑問文において、これらの表現が失礼にならないために、日本語母語話者はどのような工夫をしているのか、また、意味論的な丁寧さに欠ける表現として、これまで問題になりやすいとされている「～たい」、「～ほしい」や「～つもり」を用いて相手の意思や希望を直接尋ねる表現は、いつも失礼に当たるのかなどを考察するため、そのような場面を想定し、日本語母語話者を対象に調査を行った。

分析の結果、失礼になるのは、「～たい」や「～つもり」を直接用いたコトバレベルでの問題だけでなく、「～たい」「～つもり」を直接用いなくても、相手の私的領域（鈴木 1989）に属する事柄について直接尋ねることも失礼さにつながること、また、「～たい」は工夫次第で相手に失礼な感じを与えることなく希望を引き出すことも可能であることが明らかになった。それから、私的領域に踏み込む危険性のある「～たい」、「～つもり」を用いることなく、相手の意思・希望を引き出していたのは、ほとんど全員が会社員であることなどから、社会経験が表現の工夫に生かされることが考察の結果から分かった。

1．はじめに

待遇レベルの高い場面において「～たい」や「～ほしい」また、「～つもり」を用いた疑問文は、相手の意思・希望を直接尋ねることになり、失礼になることが、多くの文献（鈴木 1989、熊井 1989、大石 1997 など）で指摘されている。しかし、日常生活の中

では、相手と行動を共にする場合や相手の要望に応えなければならない場合など、相手の意思・希望を聞くことが必要な場合もある。

そこで、本稿では、疑問文における意思・希望表現と聞き手の私的領域との関係を明らかにするために、日本語母語話者を対象にアンケートを実施して分析と考察を行う。

その手順として、調査結果から相手の意思や希望を必ず聞かなければならない状況では、どのような表現が用いられているのかを分析する。次に、その調査結果を基に相手の意思・希望を直接聞く表現は、常に相手の私的領域に踏み込んだことになり、失礼さにつながるのかについて分析する。さらに、相手の意思・希望を尋ねる表現であっても失礼にならないためには、どのような条件があるのかなどについても考察を行う。

2．本稿における私的領域の捉え方

本稿では、鈴木（1989）による「聞き手の私的領域」[1]という概念を敷衍して、聞き手の所有物、趣味、趣向など、私的領域に属する多数の項目を含めて、聞き手に関わるすべての領域を「聞き手の私的領域」と再規定し、その関係を図1に示す。

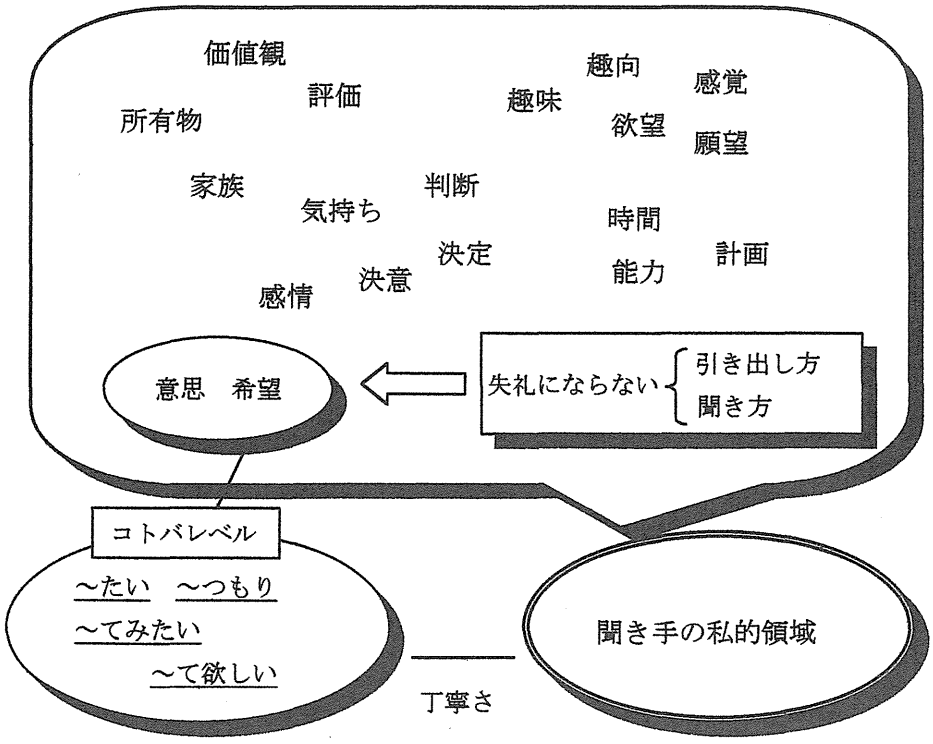

図1 聞き手の私的領域と意思希望表現の関係

[1] 聞き手の欲求・願望・意志・感情・感覚など、個人のアイデンティティに深く関わる領域である。（鈴木 1989）

３．研究方法

話し言葉の場合には、使用語彙が多少失礼な場合でも、言い方、その場の雰囲気、表情、態度など、他の要素で補うことも可能であると考えられる。しかし、手紙、電子メール（E-mail）など、相手とその場でやりとりができない場合のコミュニケーションは、相手の態度や反応がその場で確認できないことなどから、他のコミュニケーションよりも語彙の選択や表現に気を使わなければならず、伝えたいすべてのことを文章に頼らなければならないことなどから、さらに表現方法に工夫が必要になってくる。

そこで、本稿では日本語母語話者が、電子メールという媒体を用いて相手の意思・希望を聞く場合の疑問文が、実際にどのように使われているのかを調べるために、アンケートを実施して調査・分析を行い考察する。

３．１ アンケートの設定内容

アンケートの内容は、相手レベル[2]＋１は先生、相手レベル－１は親しい友人という２つの設定にして、その相手から届いたメールを読んで、指示した３つの質問を含めてメールの返事を作成してもらうものである。

なお、アンケートを依頼した時期により、季節の挨拶は変化を加えたものもある。（アンケートの内容は添付資料参照）

３．２ アンケートの設定内容から意図したこと

－１レベル（親しい友人）の相手の意思・希望を直接聞くことは問題にならない場合が多いので、この質問は不要と思われるが、友達と先生に「同じことを聞く」という設定により、アンケート対象者に「これは、敬語の使い方を見る調査である」ことを認識させるために付け加えている。

また、質問にあえて「～たい」や「～つもり」という表現を用いて指示した理由は、この表現をそのまま用いてアンケートの内容に答える人と、友達と先生とで表現方法を区別する人とでは、意思・希望表現を使った疑問文に対しての意識の違いなどが見られるのではないかという狙いがあるためである。

３．３ 調査の対象

日本語母語話者 50 人を対象にアンケートを行った。その年齢構成、性別を図 2、職業別を図 3 に示す。

---

[2] 相手レベルとは、「敬語表現」を考える枠組みとして、「相手」の位置づけ（上下関係と親疎関係）をするためのものである。（蒲谷他 1998）

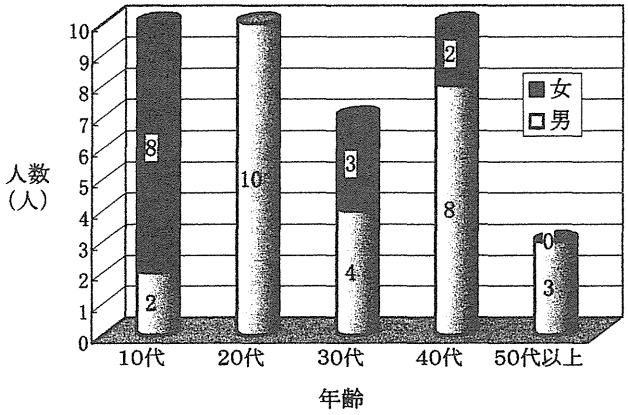

図２　日本語母語話者の性別と年齢分布

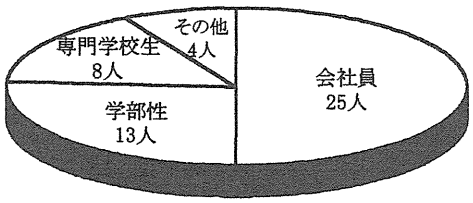

図３　日本語母語話者の職業分布

４．考察内容

私的領域とは、その人の個人的な領域、他人には干渉されたくない領域であるため、ごく親しい関係の人以外の他人に触れられると失礼に感じる。このため、聞き手の私的領域に触れないことが望まれるが、場合によっては触れなければならないこと、触れることが必要な場合もある。例えば、相手と行動を共にする場合や相手の要望に応えなければいけない場合など、スケジュールや趣味・趣向など私的領域に踏み込んだ会話をすることが必要な場面に遭遇する。このような場合には、私的領域に触れる表現でも、友達にはさほど失礼にならないが、同じ表現でも目上の人には失礼な場合があり、その傾向は、意思・希望表現に特に著しいと考えられる。このような性質があるために、ましてや質問になると、なおさら気をつけなければならないことになる。実際、日本語母語話者は相手レベルが＋１の場合どのようなところに配慮した表現を使用しているのだろうか。従来、待遇レベルの高い場面において問題になるとされてきた「～たい」、「～ほしい」や「～つもり」を用いた表現だけが、聞き手の私的領域に踏み込むことになるのだろうか。また、これらの表現を使用しているにもかかわらず、それほど失礼だと感じさせない表現が存在するとすればその理由は何か。逆に、これらの表現を使用していないのに、失礼だと感じるのは何故か、それは私的領域とどのような関わりがあるのか、などについて以下の内容を中心に考察を進める。

① ＋１レベルの人の意思・希望を直接尋ねている文の中で、聞き手の私的領域に踏み込んでいる文例を選び、その理由を分析する。

② ＋１レベルの人の意思・希望を直接尋ねている文の中で、聞き手の私的領に踏み

込んでいるが、それほど失礼だと感じない文例を選び、その理由を分析する。

③「たい」や「～つもり」を使用することなく目上の人の意思・希望を尋ねている文例を選び、その工夫を分析する。

④ その他、聞き手の私的領域に踏み込んでいる文例を選び、その理由を分析する。

上記の分析結果を基に、疑問文での意思・希望表現が失礼にならないための条件について考察する。

5．アンケート調査の結果と考察

私的領域に踏み込む表現は、相手の意思や希望を尋ねる時に「～たい」や「～つもり」などの言葉を用いた表現だけではないことが分析の結果から得られた。そこで、聞き手の私的領域に踏み込んでいる表現を、コトバレベル（言葉の使い方で、相手の私的領域に踏み込んだ例）と事柄レベル（聞く内容が相手の私的領域に踏み込んだ例）に大別して考察を進める。

相手の私的領域に踏み込むことは一般的に失礼になると考えられるが、これらの解釈において、その表現を失礼に感じるか、感じないかについては、当然意見が分かれるであろう。しかし、来日する予定や帰国する予定など、私的領域にある行動日程を聞くことが、その計画を正確に滞りなく遂行できることなどから、心配をなくし安心につながる場合には、かえって聞いてくれた方が（私的領域に踏み込んだ方が）、丁寧になる場合もある。このように、その場面、その状況によっては、失礼さを与えない場合も考えられる。

また、私的領域にもその踏み込む強さに段階があり、同じ疑問文を使用しても、私的領域に踏み込んだ失礼な表現であると感じる聞き手がある一方、直接質問するのは失礼なので、私的領域に触れないように配慮した質問をしたことによって、逆に、回りくどい質問になることから、的を得ない疑問文となり不快な感じを与えてしまう場合考えられる。さらに、同じ疑問文、表現を使用したとしても、聞き手個人の受け取り方や感じ方も異なることは当然のことであろう。また、話し言葉ではイントネーションや表情などで失礼さをカバーできる場合もあるが、今回のように、文章になると同じ表現でも失礼に感じることもある。

このように失礼さに対する解釈については議論する必要があると思われるが、本稿での考察は、相手の私的領域に踏み込むことは一般的に失礼になることが多いことなどから、私的領域に踏み込むことは失礼さにつながりやすいとして議論を進める。

5．1 コトバレベルで失礼な要素

（1）「～たい」を使用している例

① 私的領域に踏み込んでいる例

「～たい」を用いて＋１レベルの相手の希望を直接聞く表現は、聞き手の私的領域に踏み込むことになる。「～たい」を用いて相手の希望を直接引き出している例には、相手に回答を要求している回答要求型と、「～たいですか」という表現を用いた直接質問型が見られた。紙面の関係上代表例を以下に示す。

[回答要求型]

	私的領域に踏み込んでいる例
1	食べたいもの、行きたいところがありましたら、お知らせください。(Ｊ4)
2	こちらで行きたいところとか食べたいものがあったら教えてください。(J13)
3	何処か行きたいところや食べたいものありますか？あったら、是非教えてください。(J25)
4	先生の行ってみたい場所や食べたいものがあれば、是非教えてください。(J35)
5	日本料理で特に召し上がりたいもの、また、観光されたい場所がある場合には教えてください。(Ｊ6)
6	召し上がりたい食事、観光地などについてもご連絡ください。(J45)

＋１レベルの相手の希望を尋ねるのに「～たい」を直接用いることで、私的領域に踏み込むことになると同時に、「教えて」、「連絡して」、「お知らせ」などの表現を使用することで、相手に回答を要求している。例５は、「召し上がる」、「観光されたい」のような敬語を用いることにより失礼な感じを少なくしている。このことから、「～たい」を使用して相手の私的領域に踏み込む質問をする場合には、他のところを最大限敬語化することにより失礼さを軽減することができると言える。

[直接質問型]

	私的領域に踏み込んでいる例
1	東京のどこに行きたいですか。(J11)
2	東京では何が食べたいですか？それから、何処へ行きたいですか？ (J18)
3	先生は何が食べたいですか？　あと何処へ行きたいですか？ (J22)
4	何か食べたいものや行きたいところはございますか？ (J43)
5	どこか訪問したい希望の場所や、味わってみたい日本料理などはございますか。(Ｊ2)

「～たい・・・か？」という表現を用いたために、相手の私的領域に踏み込んで相手の希望を直接聞いている例である。例５は、表現そのものは直接相手の希望を聞いているが、文中の「～たい」がそれぞれ「希望の場所」や「日本料理」という名詞を修飾していることと、「行きたい」ではなく、「訪問したい」、「食べたい日本料理」ではなく、「味わってみたい日本料理」という言葉の使用により他の例に比べて失礼な感じを少なくし

ている。

② 私的領域に踏み込んでいるが、それほど失礼ではない例

以下に示す例は、すべて「～たい」という表現を用いて相手の私的領域に踏み込んでいるものの、少しの工夫により私的領域に踏み込む範囲を狭めることで、失礼さを少なくしている。

	私的領域に踏み込んでいるが、それほど失礼ではない例
1	特にご覧になりたい場所や、お食事についてのご要望についてご連絡頂ければ幸いです。（Ｊ３）
2	東京の名所、これだけは必ず観光したい、食べてみたいというものがありましたら、お知らせいただければ幸いです。(J46)
3	日本料理の中で特にお召し上がりになりたいもの、ご覧になりたいところなどはございますか？ (J49)
4	東京には様々な見どころがございますので、もし先生が観光したいとお思いの場所がございましたら教えていただけますか？ (J15)

上記の例はすべて「～たい」を用いて相手の希望を尋ねているが、回答要求型や直接質問型に見られた表現とは異なり、これらの表現はそれほど失礼だとは感じさせない。その理由を考えてみたい。

「これだけは」や「特に」という表現を用いて、相手の希望を尋ねている例１と２の質問では、その人の趣向の一部分を聞いているに過ぎないため、その人の特徴が現れにくく、私的領域に踏み込む範囲が少なくなっている。「日本料理の中で」と限定して相手の希望を引き出している例３の表現は、選択できる範囲を狭めると共に、その人の趣向領域の中でも限定することで、「～たい」を用いて希望を引き出しているにもかかわらず、それほど失礼とは感じさせない。また、敬語の使用も失礼さを感じさせない一因となっている。最後に例４は、選択肢を多くして好みを言うのが当然であることを前置きすることで、遠慮なく希望を言える環境を作り失礼さを軽減している。さらにすべての例で「～たい」を言い切りの形で文末で使用していないことも失礼さを軽減させている要因の一つである。

③ 私的領域に踏み込んでいない例

以下に示す例は「～たい」を用いないで、相手に希望を引き出している例である。

	私的領域に踏み込んでいない例
1	日本での日程、観光のご希望、日本料理で好きなものなど、教えて頂けませんでしょうか。（Ｊ1）
2	先生は日本料理は何がお好みでしょうか。（Ｊ5）

3	○○先生は日本料理が好きと言っていましたが、どんなものが好きですか？（Ｊ8）
4	お寿司やお刺身など希望される日本のメニュー、それから希望される観光場所などについてもご連絡をお願いします。(J30)
5	何かお好みの場所・料理等ありましたら、お教えいただければ幸いです。(J28)

上記の例では、「～たい」という表現を使用する代わりに「希望」、「好み」、「好き」という言葉を用いて、相手の希望を広範囲に、かつ間接的に聞くことで、私的領域に踏み込むことを避けている。

例３は敬語を用いていないことなどの問題はあるが、過去の趣向情報などから切り出すことで、質問をされているという印象を弱めている。例４は、回答例を提案して、直接的に質問をすることを避ける表現を用いて、相手の希望を引き出すことで私的領域に踏み込むことを避けている。

（2）「～つもり」を使用している例

	私的領域に踏み込んでいる例
1	先生はいつまで日本に滞在するつもりでいますか？（Ｊ25）
2	先生はいつまでこちらに滞在するおつもりでいらっしゃいますか？（作例）

相手の意思を「～つもり」を用いて直接聞くことは、－１レベルの相手には失礼にならない場合が多いが、＋１レベルの相手には私的領域に踏み込んだ質問となり、甚だしく失礼になる。「～たい」は、食べたいものや、行きたい所などを修飾することが可能であるが、「～つもり」はそれが難しい。「～つもり」は「です／ですか」と組み合わせて使用する方法しかない。作例のように「～つもり」の前後に敬語を用いるなど、表現に工夫をしても失礼さを回避することはできない。「～つもり」は「～たい」の使用とは異なり、敬語を併用しても失礼さを回避することができない。

（3）「～頑張る」を使用している例

	私的領域に踏み込んでいる例
1	それでは、学会頑張ってください。（Ｊ25）
2	暑い日が続いておりますが、暑さに負けないよう、頑張ってください。（作例）

相手の私的領域である気持ちに触れる「頑張る」という言葉は、－１レベルの相手には失礼にはならないが、＋１レベルの相手には失礼になるため、このような言葉を使用することはできない。また、この表現は－１レベルの相手には挨拶代わりの表現として使用されることもあるが、この場合には特に失礼さは感じられない。しかし、「頑張ろう」という気持ちは相手の意思であるため、相手の私的領域に触れることとなり、＋１レベルの相手には失礼な表現となる。

５．２ 事柄レベルで失礼な要素

（１） 相手の帰国予定を詳細に聞いている例

① 私的領域に踏み込んでいる例

相手の予定である帰国日などを直接聞くことは、相手の私的領域に踏み込むことになるので失礼につながる恐れがある。帰国予定を詳細に聞いている例には、５．１で述べたコトバレベルで失礼な場合と同様に、大きく回答要求型と直接質問型が見られた。

[回答要求型]

	私的領域に踏み込んでいる例
1	韓国に帰る日を教えていただきたいと思います。（Ｊ19）
2	いつお帰りになるのかも合わせてお知らせください。（Ｊ4）
3	韓国に帰国される日などをご連絡頂けませんでしょうか。（Ｊ20）
4	お帰りの日時が決まっておりましたら、ご連絡ください。（Ｊ42）
5	帰国の日程も分かりましたらメールしていただけると助かります。（Ｊ12）

相手の予定を「教えて」、「お知らせ」、「ご連絡」、「メールして」などの表現により、相手に回答を要求することは、私的領域に踏み込むことになり失礼につながる恐れがある。特に、例２と４の表現は一方的に指示されている印象を与えるので、さらに失礼に感じる。また、例５のように通信手段をメールと特定していることも失礼になるので、「メール」を「ご連絡」に変更するなど、特定しないことで失礼さを軽減することができる。

このように私的領域に踏み込む場合には、例１の「帰る日→お帰りの日」、例４の「決まっておりましたら→お決まりでしたら」、例５の「帰国→ご帰国」、「分かりましたら→既にお分かりでしたら」、「メールして→メールにてでもご連絡」のように、可能なところは最大限敬語を使用することで、失礼さを軽減することができる。

[直接質問型]

	私的領域に踏み込んでいる例
1	先生はいつ韓国に戻られますか？（Ｊ47）
2	いつ韓国へ帰る予定でしょうか？（J23）
3	いつ日本を発たれますか？（Ｊ9）
4	いつ韓国に帰るのですか？（作例）

上記の例に見られる「いつ・・・か？」という表現を用いて相手の帰国予定を直接質問することは、常に私的領域に踏み込むとは言えないが、相手の意思の領域に触れることなどから失礼になりがちな表現となる。このような表現では、観光案内を引き受けている設定内容から考えると、「早く帰ってほしい」という意思がなくても、そのようなニュアンス

が相手に伝わってしまう恐れもあるので、このような表現は避けた方が望ましい。

失礼さの捉え方については既に述べているように、今回のアンケートでは日程を聞く必要があり、敬語を用いて丁寧に聞くこと自体は失礼でないとも思われる。しかし、これから例を挙げて考察を進めるが、私的領域に触れることもなく予定を引き出している例も見られることなどから、それに比較すると失礼さは感じられる。

② 私的領域に踏み込んでいるがそれほど失礼ではない例

	私的領域に踏み込んでいるがそれほど失礼ではない例
1	お見送りしたいので、帰国の予定日を教えて下さい。（J 6）
2	お帰りの際は、空港までお見送りしたいと思っています。帰国の日時をお知らせいただきたく存じます。（J 36）
3	宿泊の方も手配したいので、具体的な滞在期間をお知らせください。（J 41）

上記の例はすべて相手の帰国日程を聞く前に、聞く理由を付け加えることで、前記の「早く帰ってほしい」という誤解のニュアンスを与えることをなくし、失礼さを少なくしている。また、見送りや宿泊手配など、相手の初来日にふさわしい企画を提案し、それを遂行するために必要な情報として、日程を尋ねるなどの工夫により、私的領域を侵さないように配慮している。さらに、自分の希望に「～たい」を使用することで、相手の帰国予定を尋ねることに対して、同意と了解を得る表現にしているために、直接帰国予定を尋ねられてもそれほど失礼さを感じさせない。

③ 私的領域に踏み込んでいない例

	私的領域に踏み込んでいない例
1	先生の日本での滞在期間を教えていただけないでしょうか。（J 15）
2	どのくらい日本に滞在するのですか？（J8）
3	いつごろまで滞在できるのかも教えていただきたいです。（J 49）
4	先生は何日くらい日本にいられるのですか。（J 11）
5	どの程度の日数をご一緒できますでしょうか。（J 2）

上記の例は「帰国」という言葉を用いることなく、相手の帰国予定を聞きくことで、私的領域に踏み込まない工夫をしている。すなわち、日本に「帰る」予定を直接聞くことなく、日本に「いる」ことに視点を移し「滞在」という言葉を用いて質問している。言い換えると、私的領域である、その人の決定する事柄（帰国予定）を聞かずに、継続している（変化しない）事柄である滞在期間に置き換えることで、失礼さを回避している。例５では、可能形を使い、相手が自分と一緒に行動が可能な時間を尋ねることにより、「嬉しい」気持ちを相手に伝えて、私的領域に触れそうな言葉を使用することなく、間接的に帰国する日やスケジュールを引き出している。

（2） 相手に回答を要求している例

① 私的領域に踏み込んでいる例

	私的領域に踏み込んでいる例
1	最後に、先生の滞在期間を知りたいので折り返しメールでお伝えください。(J16)
2	希望がありましたら、事前に教えていただけないでしょうか。(J29)
3	また、お食事は何がよろしいでしょうか。検討してみてください。(J37)

相手の日程などを、自分のために教えてほしいと要求することで、相手に負担をかけていると同時に、強い依頼をして失礼な感じを与えている。さらに、「折り返し」、「事前に」、「検討」などの言葉を用いることで、自分が知りたいことに関して、相手に必ず返事をするように（相手の行動を促す）強い要求と指示をしているので失礼になる。

② 私的領域に踏み込んでいない例

	私的領域に踏み込んでいない例
1	その他、何か事前にお知りになりたいことがあればお知らせください。(J39)

「希望を聞いているのはあなたのためなんだ」というニュアンスのある表現を使用することなく、必要な内容を聞く工夫をしている。自分が事前に知りたいことよりも、相手を優先する言い方をしたことにより、相手への配慮が感じられる。さらに、相手に答えをする・しないの選択権も与えていることで、失礼さを軽減している。

（3）話し手が決定権を持っている例

① 私的領域に踏み込んでいる例

	私的領域に踏み込んでいる例
1	私は○○が好きなので、お寿司屋さんにご一緒しようかと思っていますが、・・・(省略) (J43)
2	最後の日に私の父と母が是非先生とお会いしたいと言うことなので、私の家でパーティーを開く予定です。(J47)

本来は、相手が決める事柄であるのに、相手の意向も聞かず、既に自分が決めたことを相手に通知しているような表現である。相手の決定事項を自分の考えにより行動させることは、相手の私的領域に踏み込むことになると同時に、決定権を自分が持つことから「敬語表現」的ではないと言える。(蒲谷他 1998) このような相手の私的領域である予定などを考慮せずに、自分の意見を押しつける表現は、失礼な感じを与える。

② 私的領域に踏み込んでいない例

	私的領域に踏み込んでいない例
1	予め観光したいところをいくつか決めておいていただければ私の方でコースをセッティングしておきます。(J33)
2	もし、よろしければ、私の家にご招待したいと思いますが、いかがですか。(作例)
3	先生のご都合のつく日など、ご連絡いただければ、ご案内したいですが、いかがですか。(作例)

上記の例はいずれも自分の希望を述べてはいるが、提案をしてその決定権を相手に与えることで、失礼な感じを無くしている。このような観点から、前記の①私的領域に踏み込んでいる例を考えると、例1は、「・・・ご一緒にいかがでしょうか。」、例2は、「・・・開くことを考えていますがご都合はいかがでしょうか。」とすることで、同様に決定権を相手に与え失礼な感じをなくすことができる。

（4）話し手の推察で述べている例

① 私的領域に踏み込んでいる例

	私的領域に踏み込んでいる例
1	先生は天ぷらがお好きだったような気がしますが、他にも食べたい料理があればどんどん自分に聞いてください。(J24)
2	先生のための観光プランを用意しました。 先生のお好みに合うと思いますが、・・・(省略) (J41)

ある事柄の前提に立って、自分の推察で相手の好みなどを述べることは、その推察した内容がたとえ事実であるとしても、相手の私的領域に踏み込むことになり、相手に失礼な感じを与えることになる。それから、相手の好みを記憶から決めつけたり、提案を押しつけることなども失礼な表現になる。失礼な感じをなくすためには、述べている事柄を確認するような形で提案したり、自分の趣味・趣向を述べて相手の希望を引き出す、つまり、自分の私的領域は侵すが、相手の私的領域には触れないなどの表現の工夫により、失礼さを回避することができる。

（5）相手の自由な時間に触れている例

① 私的領域に踏み込んでいる例

	私的領域に踏み込んでいる例
1	また、帰国日と共に自由な日時を教えていただければ、私の方でスケジュールを作成させていただきますが、いかがでしょうか。(J28)
2	ご都合の良い日などスケジュール、・・・(省略) などについてもご連絡下さい。(J45)

相手の自由な時間などは、私的領域に属している事柄であるので、必要以上に聞くことや詳細に聞くことは失礼に当たる。これらの表現の問題を解消するためには、相手の自由な時間には直接触れることなく、食事や観光について提案し、相手に選択権を与えるなどの工夫をして失礼さを回避することができる。

6. まとめ

分析した結果から、疑問文における意思・希望表現は、聞き手の私的領域と深い関係があることが分かった。しかし、「～たい」を用いて相手の希望を直接を引き出すことは常に失礼さにつながるのではなく、表現の工夫や敬語の使用次第では失礼さを軽減させたり、回避することも可能であることが考察の結果から明らかになった。これらの結果を以下にまとめる。

（1） 疑問文での意思・希望表現が失礼にならないための条件として、

① 「～たい」や「～つもり」を用いて、直接相手の希望を聞くことを避ける

② 可能な限り具体的な質問を避け、広範囲に、かつおおまかに希望を聞く

③ 質問の焦点を意思や希望から移し、間接的に質問する

などが挙げられる。

（2） 目上の人（+1レベル）に対して、私的領域に属する意思・希望を聞く場合に、聞き手の私的領域に踏み込んでいる表現は、「～たい」、「～つもり」を用いたコトバレベルだけではなく、「相手の帰国予定を詳細に聞くこと」、「相手に回答を要求すること」、「話し手が決定権を持つこと」、「話し手の推察で述べること」、「相手の自由な時間に触れること」など、事柄レベルで私的領域に踏み込む表現も見られる。コトバレベルで私的領域に踏み込んだ表現は、聞き手に失礼に当たるかどうかを、その使用した言葉で判断することができるが、事柄レベルによる私的領域に踏み込んだ表現は、聞き手が失礼だと感じていることに話し手は気付きにくいと考えられる。

（3）「～たい」を用いて私的領域に踏み込んではいるが、

① 選択の範囲を狭めて質問する（例：○○料理の中で）

② 例を挙げて焦点を希望から別の対象物に移す（例：○○などがありますが・・・）

③ 「一番」や「特に」などの副詞を用いて、希望の一部分だけを聞く

などの工夫を加えることで、失礼な感じを抑えて目上の人の希望を聞くこともできる。この例に見られるように、待遇レベルの高い場面において問題になりやすい「～たい」を用いても工夫次第で、失礼さを回避することも可能となる。

（4）私的領域に踏み込む危険性のある「～たい」、「～つもり」を使用することなく、＋1レベルの相手の意思・希望を引き出している例は、日本語母語話者50人中8例（16%）であるが、この中から事柄レベルで相手の私的領域に踏み込んでいる例を除くと、私的領域に踏み込んでいない例は半数に留まることから、失礼にならないように相手の意思・希望を引き出すことは母語話者においても簡単ではないと言える。その8例の内訳は1人を除いた7人が会社員で、その中で私的領域に踏み込んでいない回答者の年齢が30代以上であることから、社会経験が表現の工夫に生かされていると言える。

（5）目上の人に「～たい」を用いて相手の希望を聞く時の表現には次の傾向が見られた。希望を引き出すために食事と観光の両方に「～たい」を用いた例には、「～や」あるいは「～とか」のような並列助詞や、「と」あるいは「また」などの接続詞を用いて、2つのことを並べた質問が多く見られた。その数は、50例中18例（35%）である。また、「～たい」を用いて希望を聞く表現においては、食事よりも観光の希望を聞くために使用した例が多く見られた。この結果から、「～たい」を用いて目上の人の希望を聞く場合、観光の希望を聞くよりも食事の希望を聞く方がより失礼になると感じていることが明らかになった。

（6）「～たい」を用いて相手の希望を引き出す表現は、敬語の使用などにより失礼さを軽減することも可能であるが、「～つもり」を用いた表現は、いかなる敬語と併用するなどの工夫を加えても、目上の人に対しては失礼となり丁寧さを欠くことになる。

7．おわりに

本稿では、個人のアイデンティティに深く関わる私的領域（鈴木 1989）に属する意思・希望を引き出すために、日本語母語話者はどのような表現を用いているかについて調査し、分析したものである。今回は、文章全体の判断ではなく、相手の意思・希望を引き出している文章の一部分だけを取り上げて分析を行った。しかし、アンケートの中には、相手の意思・希望を引き出すために、失礼な表現も多少含まれているが、文章全体の流れから判断すると、それほど失礼な感じを与えない例も見られた。このことから、全体の表現から分析することも必要であると考えられる。今後、これらの考察結果を基にして、日本語教育の中でも、特に待遇表現や待遇コミュニケーション（蒲谷他 2003）教育への応用に向け研究を進めたいと思う。

【参考文献】

朝倉日本語講座 8（2003）『敬語』朝倉書店 pp. 31-72

李承禧（2003）「丁寧さと聞き手の私的領域に関する考察－意思・希望表現を中心に－」早稲田大学日本語教育研究科修士論文

大石久美子（1996）「「～（し）たいですか」に代表される願望伺いについて－オーストラリア英語母語話者と日本語母語話者の接触場面での問題 －」『日本語教育』91-12 日本語教育学会

――――（1997）「日本語の願望疑問文の使用制約－「～したい？」「～してほしい？」を中心とするアンケート調査をもとに－」『日本語と日本語教育』26 号慶応大学国際センター

――――（1998）「接触場面での上級日本語学習者の願望疑問文の問題」『世界の日本語教育』８号　国際交流基金日本語国際センター

荻野綱男（1991）「聞き手敬語の丁寧さ意識と敬語行動－丁寧だと思えば丁寧か－」『文藝言語研究』20 号　筑波大学文芸・言語学系

加藤主税（1977）「「たい、たがる、ほしい、ほしがる」について－日本語分析の一試論－」『日本語・日本文化』第５号　大阪外国語大学研究 留学生別科

蒲谷宏（1999）「『敬語』を乗り越える－『敬語表現』という考え方」『月刊言語』28-11 大修館書店

蒲谷宏・川口義一・坂本惠（1996）「待遇表現の指導」『日本語学』第 15 号７月臨時増刊号 明治書院

――――――――――――――(1998)『敬語表現』大修館書店

蒲谷宏・待遇コミュニケーション研究室(2003)「「待遇コミュニケーション」とは何か」『早稲田大学日本語教育研究』２号　早稲田大学大学院日本語教育研究科

蒲谷宏・坂本惠(1991)「待遇表現教育の構想」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』3　早稲田大学日本語研究教育センター

神尾昭雄（2002)『続・情報のなわ張り理論』大修館書店

熊井浩子（1989)「待遇表現指導の一視点　－「ほしい・たい」を中心にして－ 」『日本語学校論集』16 号　東京外国語大学　外国語学部付属日本語学校

小松紀子（1985)「意向表現の使われ方－ツモリ・タイ・ウ／ヨウを中心にして」『アメリカ・カナダ１１大学連合日本研究センター紀要』１号

酒井順子（2000)「「その（そんな・どういう）つもり」の談話機能」『東京外国語大学 留学生日本語教育センター論集』26

鈴木睦（1989)「聞き手の私的領域と丁寧表現 －日本語の丁寧さは如何にしてなりたつか－」『日本語学』8-2 明治書院

吉川武時（2000)「「つもり」について」『東京外国語大学 留学生日本語教育センター論集』26

【添付資料】

アンケート

次の設問に答えて下さい。

想定Ⅰ

韓国人の友達が東京で開催される学会に参加するため来日します。あなたは友達が東京に滞在する間、案内することを約束しました。その友達から次のようなメールが届きました。

○○さんへ 元気にしてる？ 東京の案内をしてくれるというメールをもらってとても嬉しかったよ。初めての日本だから心配してたんだけど安心したよ。学会が終わっても、何日か時間があるから、東京の観光もしてみたいな・・・。おいしい日本料理も楽しみ！待ち遠しいよ～。忙しいのにごめんね、よろしく。じゃあね。

友達に**（ア）何が食べたいのか、（イ）何処へ行きたいのか、（ウ）いつ韓国に帰るつもりなのか**、の質問を含めた返事のメールを送ってください。

想定Ⅱ

韓国で教えてもらった大学時代の先生が東京で開催される学会に参加するため来日します。あなたは先生が日本に滞在する間、案内することを約束しました。その先生から次のようなメールが届きました。

○○ 様 暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか。 このたびは、東京の案内をお引き受け下さりありがとうございます。初めての日本なので心配していましたが、お蔭様で安心しました。学会が終わっても何日か時間がありますので、せっかくの機会ですから東京を観光してみたいと思います。日本料理も食べられるし、待ち遠しいです。お忙しいところ申し訳ありませんが、お世話になります。よろしくお願いします。

先生に**（ア）何が食べたいのか、（イ）何処へ行きたいのか、（ウ）いつ韓国に帰るつもりなのか**、の質問を含めた返事のメールを送ってください。

差し支えなければ○印をご記入ください。

所属　（ ）学部生　（ ）大学院生　（ ）会社員

年齢　（ ）10代　（ ）20代　（ ）30代　（ ）40代　（ ）50代

性別　男　女

ご協力ありがとうございました。

李 承禧（イ スンヒ）大学院日本語教育研究科博士後期1年